

新健康協会では、新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間のもつ治癒力や適応力をお伝えしています。肉体的、精神的なコトでお悩みの方も是非一読されてみてください。

# 健康新聞

発行所 新健康協会  
発行人

〒813-0001  
福岡市東区唐原6丁目7番1号  
TEL:092-661-1531  
<https://shinkenko.jp>

次の御論文は明主様が、昭和二十三年に発表されたものであります。  
世界平和と心身共に健全な人間作りを目指す活動に御理解を頂ければ幸甚です。

## 幸福

古往今来、いかなる人間といえども幸福を冀わぬ者はあるまい。幸福こそ実に人間最初にして最後の目標であるからである。幸福を得んがための学問であり、修養であり、努力であるにかかわらず、満足につかみ得る者は果たして幾人あるであろうか。大部分は幸福を獲得せんとし続けつつ、かえって不幸の境遇にあり、解決の喜びを遂げらるる事なくして不帰の客となるというのが、一般人の現実である。然らば幸福を得るといふ事は、そんなに難しいものであろうか。私は否と言いたいのである。

そもそも幸福とは、病氣、貧乏、鬭争、この三大問題の解決が基本である事は誰も知るところであるが、言うはやすく実現は難く、大抵は諦めるの余儀なきに至るのである。一切は原因があつて結果がある。勿論幸福とても同様であるとするれば、その原因をまず知る事こそ問題解決の出発点であらねばならない。

従つてその原因に不明である以上、何程努力しても実現の可能性はないに決まっている。然らばその原因とは何か、それを私は述べてみよう。昔から言うところの善因善果、悪因悪果とは実に千古を貫く真理である。この理を知つて他人を

幸福にするために努力する事こそ、自分自身を幸福にする絶対的条件であらねばならない。

ところが世の中には、他人の不幸を顧みずして自分だけが幸福になろうとする人間があまりにも多い事である。一方に不幸の種を蒔きつつ幸福の実を得ようとするのであるから、全く愚かな話である。丁度水を押すと手前のほうへ流れ、引くと先へ流れるのと同様である。

宗教が人間にとっていかに必要であるかは、この点にあるのである。即ちキリスト教の愛といい、仏教の慈悲というのも、他人を幸福にする利他的観念を植え付けるのが本義である。このような簡単な道理も人間はなかなか認識し難いものである。そこで神様や仏様は種々の教義を作り、心言行の規準を示し、見えざるものの存在を教え、取次者をして誠心誠意信仰に導くのであるが、一人の人間を救うにも容易なものではないのである。それも無理はない。一般人は見えないものは信じないという教育のもとに唯物思想に固まっているので、なかなか耳を傾けようとはしないのであつて、迷夢に鎖され暗黒の中を彷徨い苦しみながら、結局帰らぬ旅路へ赴くのであるから、誠に憐い人生といふべきである。

然るに、生あるうちに歓喜に浸り、法悦の境地に住し、長寿を得、真の幸福者たり得る方法がありとすれば、正にこの世は天国であり、生き甲斐があるといふべきである。しかしながら言うであらう。このような苦の娑婆にいて、そんな幸福者たり得るはずがないと諦めている人が一般人の考えであろう。しかし、我等は断言する。右のごとき幸福者たり得る秘訣のある事で、それを御伝授する手びきとして、まずこの雑誌を提供するのである。

## 浄霊体験記

- 浄霊に出合い 人生が大きく変わる
- 治まらなかった歯痛 一度の浄霊で楽になる
- 浄霊で頭痛が改善 見違えるように元気に



体験記

浄霊による個人の感想

明主様は、浄霊によって魂が清まると運命が向上し、幸せになることを、事実を以て示されたいと語っています。
次に紹介しております数々の喜びと感謝の体験記も、そのことを物語っています。

浄霊に出会い
人生が大きく変わる



香椎支部
宮本英則 (58)

私は小さい頃から虚弱体質とまでは申しませんが、大なり小なり病気を患っては病院通いをしてきました。最初に大病を患いましたのが、小学校三、四年生の夏です。腎盂炎となり、それぞれ一カ月間毎日大きな注射を打ちに行っていたことをすっかり覚えていません。
その後は中学二年生の時に胆嚢炎を起しました。夜中に激しい痛みを感じたと思うと、段々息がしづらくなり、最後は声も出せない状態になりました。すぐに近所の医者へ往診してもらい、モルヒネの注射を打ってもらったことがありました。

それから極めつけと言ってもいいのですが、中学三年生に進級して間もなく、お小水の色がいつもより濃くなったのと、体にだるさを感じたことから、近くの町医者の診察を受けました。その時の診断結果は「膀胱炎」でした。しかし、どうしてもその診断に納得がいかなかった私は、母に相談して、一人で隣の総合病院へ診察を受けに行きました。結果、腎臓炎と診断され、その場から連絡してもらいましたので、両親が着替え等を持参して慌てて駆けつけたのをすっかり覚えてます。

入院して即二週間の絶対安静と言われ、食事とトイレに行く以外は、ずっとベッドの上で横になっておりました。その上、極端な食事制限で、体重は約一カ月で十数キロ以上痩せてしまいました。
それまでの学生生活はおかげ様で全てにおいて順風満帆でしたので、いきなり崖から突き落とされた気持ちになり、ベッドの中で涙する日々が続きました。先の見えない不安から「自分の人生は終わった」と悲しみて落ち込んでしまっていました。

その後、両親はあるおばあさんが調合する漢方薬が良く効くという話を聞いて、そのおばあさんをお願いして分けてもらい、入院生活の途中から病院の薬に加え、その漢方薬を飲むようになりました。この薬は退院した後も中学校へ持って行き、給食の後に飲んでいました。

入院して二カ月が過ぎた頃、母の親友の平江禮子さん(芦北支部会員)が見舞いに来てくれました。後で聞いた話では、見舞いの前に平江さんが私の

母に浄霊の話をしていたそうですが、「今は漢方薬に一生懸命だから」という理由で、母はお断りしていたようで、この時は残念なことにまだ浄霊に御縁がありませんでした。
その後、検査の数値が落ち着いてきたという事で、三カ月半の入院生活を終え、自宅に戻ってききましたが、入院時と比べてかなり痩せてしまい、青瓢箪という言葉があります。まさしくその言葉がぴったりな感じでした。

すぐるように求めた浄霊

退院後は体がつかつたため、一カ月間、家で療養しました。その後中学校へ復学をしましたが、一時限目、もしくは二時限目で体がつかなくなり、熱も出始め、早退するという日々が二カ月くらい続きました。そしてやっと午前中の授業に出られるようになったのは、冬休みの直前でした。そしてこの時期、もう一つつらいことがありました。それは二週間に一度の病院での定期検査でした。いつも検査の結果が心配で仕方なく、もしまた悪くなると入院になったらどうしようというストレスで、半分ノイローゼのような状態になっていました。

年が明けても毎晩熱が出る日が続いていました。そんな時、母は自身の肝臓病がきっかけで、友人の平江さんより浄霊をいただき始めていました。私とは例えば、毎晩出る熱に苦しみつつ、退院時医者から「腎臓炎は風邪の菌が原因していたから、これからは風邪をひかないように注意しなさい」と

言われておりましたので、風邪をひくことなく、毎晩の熱からも解放されるいい方法はないものかと考える毎日でした。
その年の三月、以前から浄霊をいただいていた母が、協会に入会することにになりました。これをきっかけに、私は家で母から浄霊をいただき始めました。またそれと同時に、浄霊を紹介して下さった平江さんのお宅にもお邪魔して、ほぼ毎日浄霊をいただくようになりました。この時までは良かれと思つてやれることは何でもやってきて、何の結果もなかった時でしたので、最後にすぐるように求めさせていただいたのが、浄霊だったように記憶しております。
それから浄霊をいただくたびに心身の状態が良くなり、浄霊の有難さを感じた私は、昭和五十四年四月六日に入会しました。

入会して有難かったことはたくさんあります。その中でうれしかったことは、当たり前ですが、食事を楽しめたことです。それまで塩分制限をしながら、過度な減塩を強いられ、食生活でしたので、心から食の幸せを感じることができたことを今でも忘れることができません。
そして退院時に医者から「今後激しい運動はしないように！」と言われていましたので、入会後もその言葉を気にして、一年間は体育の授業を休んでいましたが、入会してちょうど一年後から、お腹の回りから太ももにかけての広い範囲で湿疹が出ました。この状態が約三年間続きましたが、この湿疹は体の中に溜まっている毒素を出すための体内の掃除であるという事を感じることができてから、少しずつ心も体

浄化作用ってどういうこと？
人間には体内の毒素を排除して健康を促進しようとする働きがあります。例えば、カゼの場合、蓄積してきた不純物や体外から入ってきた毒素を浄化するために熱や痛みが出ます。そして、その結果ハナやタンなどが体の中が掃除され、霊・体共に清浄化されます。
その毒素排除の過程を浄化作用と言います。
ですから浄化作用は、体の不調和を調和させる大切な清掃作用でもあるのです。

も楽になり、入会して二年目からは体育の授業も普通に出席することができるようになりました。おかげ様でその後は無事に高校生活を送ることができ、その後なんと大学まで進学することが出来たのです。
そして浄霊のおかげで、その後もずっと元気に過ごすことができており、妻と二人の子どもの家族にも恵まれ、とても幸せに暮らしております。入院当時、「人生は終わった」と悲しみにくれていましたが、浄霊に出会えたことで私の人生は大きく変わりました。毎日がただただ感謝の連続で、心から感謝申し上げるばかりです。
明主様、大切な命と多くの御守護をいただきまして、誠に有難うございます。(福岡県福岡市)

## 治まらなかつた歯痛 一度の浄霊で楽になる

広島支部 福川忠良(56)

私は、約十二年前の平成二十一年十月六日の朝、起床時に寝違えたかのような右首の軽い痛みを感じ、その夜から左下の歯茎が腫れ、強い痛みを感じるようになりました。そして翌日からは、左のあご部分全体が腫れ、口も正常に開かず、顔も変形し激痛が襲うようになりました。

私自身、以前より薬はなるべく服用しないよう心掛けていましたが、仕事もありましたのと、あまりの苦しみで、三カ月に一度歯の定期ケアで訪れる歯医者で痛み止めを出してもらいました。最初の内は痛みが六時間程度軽減していましたが、その内服用しても二、三時間程度しか痛みが軽減せず、医師から最低でも一錠六時間は服用間隔をあけて飲むように指示されている痛み止めを、二時間おきに二錠服用しても痛みが治まらない状況になり、夜も眠れず、心の中で「神様、どうかこの痛みから救って下さい。お願いします」と叫んでいました。

そして十月九日、以前協会の話をしてくれた同じ会社の小田佳史さんに「支部で浄霊をいただきたいので、どうか支部と一緒に連れて行ってもらえませんか？」とお願いし、初めて支部に参拝しました。支部の先生から浄霊をいただきますと、徐々に痛みと腫れが小さくなるのを感じ、浄霊が終わった時には全く痛みがなくなっていました。ただ、少し時間

が経てばまた痛みが再発するのではないかと、半信半疑の自分がありました。

しかし、数日間まともに食事ができなかったのですが、支部からの帰社途中、食欲がでてきたので恐る恐る食事をしてみましたが、痛みはなく、その後は左下歯茎からの出血があったことが良かったのでしよう、腫れも完全に治まり、顔の変形もなくなりました。

そして、その夜帰宅後、妻が私の顔を見るなり「腫れが治ってる！痛みは？」と驚き、当日の経緯を説明し、私達夫婦は当時二十一年目の結婚記念日でもあり、妻の誕生日でもあった平成二十一年十一月七日に夫婦で入会しました。

### 浄霊で心身共に救われる

入会して約十二年間、数々の御守護をいただく中、本年(令和三年)一月十一日、仕事を終えて帰宅し夕食後、鏡餅をぜんざいにして食べて、テレビを見ていると急に頭が痛くなったので、妻に浄霊をお願いし、十分くらい経つと急な吐き気をもよおしトイレに駆け込みました。多量の嘔吐と鼻血が出て気分は良くなり、早めにベッドに横になりましたが、三十分後、また急な吐き気をもよおしましたので、慌ててトイレに駆け込みました。今回は鼻血は出ませんでした。多量の嘔吐をしましたが、おかげ様で、その時も浄霊をいただきます心身共に良くしていただきました。今回、脳梗塞等で倒れていたかも知れないところを、嘔吐と鼻血で、命の継ぎ足しをいただいたと思います。明主様、誠に有難うございました。(広島県広島市)

## 浄霊で頭痛が改善 見違えるように元気に

周南支部 堀家幸美(60)

私は令和二年十一月三日にパソコンを使った、リモートでの試験を自宅でするようになっていましたので、その日の朝に明主様に御守護御願いをさせていただき、おかげ様で無事に試験を受けることが出来ました。

その後、胃が痛くなつていきまされたので、もう一度御守護御願いをさせていただき、その日は夫(会員)から浄霊をいただきました。

翌四日の朝は頭痛がひどく、一度出勤しましたが、仕事が出来なかつたので支部に行き浄霊をいただきました。座っているのもつらい状態だったので、別室で横になり浄霊をいただきました。特に額から両目の奥、右側頭部の痛みがひどく、寒気も感じ、胸も時々苦しくなりました。おかげ様で浄霊をいただいていると眠つてしまい、三十分から一時間ほど眠つては目が覚め、たくさん浄霊をいただいているうちに二回ほど嘔吐し、嘔吐の後は頭痛が少しづつ軽くなり、自分で運転して自宅に帰れるまでになりました。

翌五日はまだ少し頭痛が残っておりましたが、元気になり、職場での大事な研修を受けることが出来ました。この研修を受けなければ数カ月かけて受けてきた研修が全て無効になるところでしたので、心から感謝が湧いてきました。

明主様に『浄化作用とは体の中の汚いものを出してより元気にしてい

ただく過程だ』と教えていただいております。現在の仕事に就いて十数年の間に何度も激しい頭痛を繰り返しましたが、その度にいつも浄霊で元気にしていただき、またそれが終わるとより仕事に対する意欲と力が湧いてきて、しつかりと働け、今では職場の責任者になりました。

福祉関係の仕事をしておりますが、年々忙しくなるばかりで、またパソコンでの事務のほか、リモートによる研修も増えて休日でも仕事をしているような感じですが、それを思いますが最近では頭痛も減ってきており、この度の頭痛のおかげで体の中のお掃除をしていただき、もしこの頭痛がなければ命がなかったのではないかとお思っております。見違えるように元気になって、八日には支部に御礼に参りました。

皆さんがこの新聞を読んで、一人でも多くの方が健康の真理を知って、幸せになられることを念願しております。

明主様、誠に有難うございました。(山口県周南市)

## 浄霊

浄霊は大自然のエネルギーであり、病気やあらゆる問題で苦しんでいる人、悩んでいる人を救う方法です。

浄霊によって魂は清浄化され、肉体が健康になっていきます。

まずは試されてみてはいかがでしょうか。

## 新健康協会は

病気・貧乏・争いのない世界、人類の幸福を最大の目標とし、心身の健康と霊性の向上を目指した「浄霊法」と「自然農法」を実施。また「美術・芸術」による魂の向上に努めています。

本教の教祖『明主様』は昭和の初めより、幸福の原動力となる「浄霊」を確立され、特に病気や色々な悩みで苦しむ多くの人を癒し、幸福へと導かれました。

浄霊入門 ⑭

(浄霊を体験したフランス人のつぶやき)

浄霊は比較できないものである。

浄霊は自然治癒を促すエネルギーであり、霊的に目覚めるためのモノでもある。つまり、幸福に達するための方法であるが、まだまだ知られていない方法である。

人間は知らず知らずに不純物を蓄積しているのだが、幸いにも掃除作用が自然とはじまり、以前話した「毒素」や「霊の曇り」を取りのぞいてくれるのだ。この掃除作用を「浄化作用」と呼んでいる。それには良い知らせもついている。

もちろん、「浄化」というのはつらい、痛い和不愉快な思いをする時がほとんどだが、その痛みを感じることは浄化している印でもあるから、結論からいうと、痛みを感じることは「良い知らせ」なのだ。実際には、風邪、下痢、熱といった不快症状は良いことなのである。

浄化作用は、肉体の苦痛だけではない。自然災害や金銭問題、不満も浄化作用の一種である。

浄化作用から物事をみると、この不愉快な出来事のこととは、必ず良くなる！だから、浄化作用というのはいはいいことなのだ。

しかし、そう簡単に受け入れることはできない。そのため「浄霊」があるのだ。

浄霊で霊・魂を浄めていくと、「霊の曇り」(または毒素)が少しずつ消えていく。すると、少しずつ浄化する必要もなくなっていくから、身体も、霊体も、芯から元気になっていく！体験するとよくわかる。

また浄霊は、免疫力を高めるのに非常に効果的！現代社会には様々な治療法が存在する。

信仰治療や心霊治療といった不思議な治療法もたくさんある。

しかし、浄霊は特別だ。

浄霊は、「火素」といって、太陽の力を利用して固まった「毒素」を溶かす力をもっている。そのため浄化作用も可能となり、人間の体が良くなっていく。

美の世界

明主様は、「美」による「心の浄化」を説かれました。世界の人々が美を楽しむ時、それは文化の進歩にも貢献する事となり人間性の向上にもつながり、天国世界が出現することにもなると教示されました。

古賀春江

《池畔の風景》

大正・昭和初期に活躍した画家、古賀春江は一八九五(明治二十八)年、久留米市の善福寺に生まれました。工場や潜水艦といった機械めいたもの、飛行船、天を指す水着姿の女性などをコラージュしたような《海》が彼の代表作として知られている通り、次々と西洋の新傾向の様式を取り入れたことで注目された面は大きいといえます。しかし、目まぐるしく様式を変化させながらも、古賀の作品には通底して情緒的な雰囲気があります。それは本人が意図したものではないかもしれませんが、なにか滲み出してしまう気質のようなもので、晩年親交のあった川端康成はそれを「仏法のおさな歌」と評しました。

中学を中退し、十七歳で絵を志して上京していた古賀ですが、病弱だったこともあり頻りに帰省してしましました。年譜を見ると、この作品が描かれたと思われる時期には東京にいる期間のほうが短く、櫛が色づく秋は九州で過ごしています。つまり本作の風景は、久留米やその周辺の筑後地方のどこかである可能性が高いものなのです。

水彩画は油彩より先に取り組んでいたもので、地元でいた頃からキャリアの初期にあたる一九二〇年代初頭までにたくさん制作しています。油彩を描くようになってから本画は少なくなりますが、スケッチや小作品として生涯涯描き続けていました。「絵は或感慨を表す象徴だから説明や抒述の心を持たないものだ」という絵画観を持っていた古賀にとつて、墨絵に通じる軽やかさと象徴性をもつ水彩は大事な表現技法だったのです。「水彩は長篇小説ではなくて詩歌だ。その心算で見たい。」

水彩はその稟性により、自由にして柔らかに而して淋しいセンチメンタルな情調の象徴詩だ。そのつもりで見たい」とも述べています。

青木繁が晩年の歌に詠ん



ているように、櫛の紅葉は筑後を象徴する植栽です。故郷の光景を見た時の胸に迫る感慨が、そのまま絵に表れている作品なのではないでしょうか。

解説 松田愛子

「背景に九州」前期展  
期間：6月1日(火)～12月11日(土)  
※晴明会館お問い合わせ ☎(092)661-1535

古賀春江《池畔の風景》